

夢なき者に成功なし
吉田松陰



S-mile 通信



令和 8 年 7 月 15 日発行 第 101 号

発行／理事長室 浜松市中央区大山町 2958 番地の 1

7月の新人研修

7月1日(水)～6日(月)にかけて新人研修を開催し、前々月に入職された方を含め合計7名の方が4日間の研修に参加されました。

研修では、法人の重要な取り組みであるアメーバ経営や木鶏会についての話がありました。職員は常に人間力を磨きサービス力を高めていくことが大切です。理事長からは「日頃のちょっとした気遣いが、介護や保育の仕事において欠かすことのできない大事な要素である」とお話がありました。

例えば、トイレや手洗い場で手を洗った後、周囲が水で濡れたままになっていませんか？

また、お部屋の出入りの際、扉の開閉で大きな音をたてていませんか？

ほんのわずかなエチケットですが、この小さな気遣いが相手への思いやりや親切心につながり、良好な人間関係を築くことにも結びつきます。

介護や保育では、相手への気遣いや気づきがとても大切です。

職員ひとり一人が心掛け、日々の行動に反映していきましょう。



新人研修 参加の皆さん



上段左から

岡田優香子さん 4/1～
てんとうむし東山保育園(保育士)
太田美幸さん 4/16～
グリーンヒルズ 東山野の空(介護員)
増井泰世さん 5/11～
グリーンヒルズ 東山看護室(看護師)

下段左から

新田実津希さん 5/18～
東山苑デイサービス(理学療法士)
今泉元志さん 6/1～
東山苑デイサービス(運転手)
高木美郷さん 6/10～
グループホーム花みずき泉館(介護員)
鈴木雅史さん 6/16～
グループホーム花みずき葵館(介護員)



ミャンマーからの留学生

昨年の春より、ミャンマーから留学生として来日し慶成会で働いているピョウさんとヤミンさんに続き、R8年5月に同国からキンソウルインさんとラヤエピャさんのお二人が留学生でお見えになりました。お二人は聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校へ入学され、平日は授業を受けながら慶成会で短時間勤務を開始されています。

既に日本語検定N2を取得済みであり、日本語を流暢に語りながら少しずつ周囲の環境に慣れてきています。

ラヤエピャさん
グリーンヒルズ野の空

先に来日したピョウさんとヤミンさん同様に、キンソウルインさん、ラヤエピャさんも卒業後は慶成会の正規職員として勤務する予定です。

学業と仕事の両立は大変ですが、多くの仲間と一緒に日本での生活を楽しく過ごしていただきたいと思います。介護福祉士国家資格の取得という大きな目標に向けて頑張ってください。職員一同応援しています。



キンソウルインさん
グリーンヒルズかがやき

“スマホ”の危機から子供達を救う

R8年5月号「致知」で、脳科学研究者の対談による“スマホ”の興味深い記事があります。

今や生活の中心となっている“スマホ”ですが、多くの人が無意識のうちに依存状態に陥っており、その影響は大人だけでなく子どもにも及ぶことが、さまざまな研究で指摘されています。

『スマホ依存の親元で育った子はスマホ中毒になりやすく、他人とのコミュニケーションが不得手であり、他者の気持ちを理解する能力が低い。また、スマホ親からの愛情が不足すると、大人を信じることができず、自分の感情を抑制することが難しい。』
『インターネットに接続できるスマホは、瞬時に情報や回答を引き出せる。そのことで思考する力が弱まり、学力の低下に繋がるデジタル認知症になるリスクが大きい。』
『子供の頃から頻回にインターネットを使用していると、脳内で言葉や情報伝達を司る領域の発育が止まる』



子供達の様子がおかしいと気づいたある国では、16歳未満のSNS利用の一部を制限する法律が成立しました。

スマホ依存の問題をまとめたスウェーデンの精神科医の著書『スマホ脳』では、寝る前のブルーライトによる睡眠不足、SNSやネット記事で注意が散りやすくなること、常にスマホを手放せない依存の悪影響が指摘されています。研究では、同じ文章でも紙で読む方が理解度は高く、スマホの利用を減らしその分体を動かす時間を増やすと集中力や情報処理速度が向上することが示されています。

脳を守り健康を害さないためにも、次の3つの習慣を守ることが大事であると書かれています。

スマホが脳に与える主な悪影響

- スマホはデジタルドラッグである
- 就寝前の使用は睡眠の質が悪化
- 集中力と記憶力が低下し、精神不調が増大



影響を最小限に抑えるための3つの習慣

- 毎日1～2時間スマホをOFFにする
- チャットやメールチェックする時間を決める
- 寝る前1時間はスマホを見ず寝室に置かない

スマホの悪影響は様々な所で指摘されていますが、デジタル社会においてスマホを完全に排除して生活するのは現実的ではありません。だからこそ大人が子供達のスマホ使用に気を配り、スマホに振り回されるのではなく、安全で上手に使いこなす力を身につけさせることがとても大切です。

PETボトルキャップ回収活動

慶成会で取り組む「認定NPO法人 世界の子供たちにワクチンを 日本委員会」の支援活動については、毎年職員や地域の皆様から回収したPETボトルキャップを回収専門業者へ持ち込み、世界の子供たちにポリオワクチンを届けています。

昨年度の委員会の報告では、国内のリサイクル業者に集まったPETボトルキャップの総数をポリオワクチンへ換算した結果、約156万人分を届けることができたそうです。

PETボトルキャップ以外にも、本やCD、ゲームなど不用品回収活動や、チャリティーマラソンランナーでの応援、キャップが写る写真やイラストをSNSへ投稿など、その他の支援活動も盛んに行われています。

慶成会では、R7年に集められたPETボトルキャップをR8年5月に回収業者へ届けました。今回は前年度より回収量が少なめでしたが合計で120kg、60人相当のポリオワクチンを世界の子供たちに届けることができました。寄付証明書が届き次第、改めて皆様へご案内致します。

R8年度も、慶成会では回収活動に取り組んでいます。少しでも多くの子供たちにワクチンを届けて参りたいと思いますので、引き続き皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

